

# 勝浦市 高齢者の移動に関するアンケート調査結果

## ■調査主旨

デマンドタクシー運行区域外で、路線バスのバス停から遠方にお住まいの世帯など、日常生活での移動困難が想定される地区の住民を対象にアンケート調査を実施し、今後の公共交通施策の参考とする。

■調査時期 2020年2月～3月

■調査対象 総野地区・川津区に居住する65歳以上の者で介護認定を受けていない者 1313人

■回答者数 805人

## 設問内容

- (1) 自宅から徒歩圏内で行くことができる場所はどこですか。(複数回答)
- (2) 徒歩や自転車などにより、自宅周辺で買い物することは可能ですか。
- (3) よく行くお店の場所はどこですか。
- (4) よく行くお店の所要時間はどれくらいですか。
- (5) 家族以外の人で買い物などの用事の代行を頼める人はいますか。
- (6) バスを利用する目的はどこに行く時が最も多いですか。
- (7) 自宅からバス停までどのくらいかかりますか。
- (8) 普段、医療機関に出かける頻度はどのくらいですか。
- (9) 医療機関に出かける際の移動時間はどのくらいですか。
- (10) 主に利用する医療機関はどのような場所に位置していますか。
- (11) 普段外出する際に、家族以外で送迎を頼める人はいますか。
- (12) 現在、買い物や病院など移動にかかる交通費の負担は大きいと感じますか。
- (13) 将来の外出、移動への不安はどのような事がありますか。(複数回答)
- (14) 将来の外出、移動に関する希望はありますか。(複数回答)

回答者数：805人

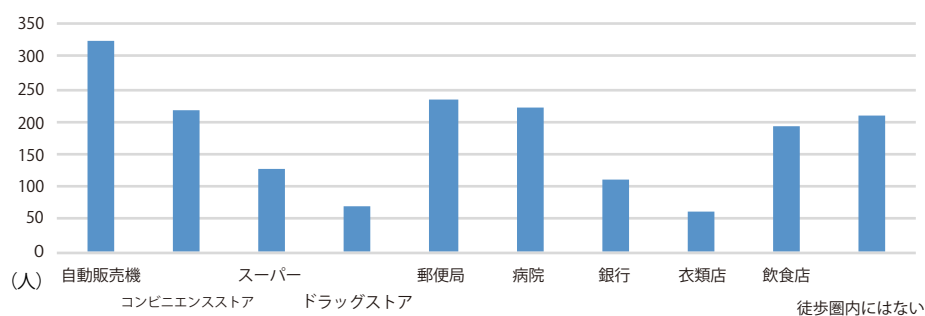
男女別人数

男性：338人  
女性：400人  
不明：67人

年代別人数

60代：174人  
70代：319人  
80代：201人  
90代：34人  
不明：77人

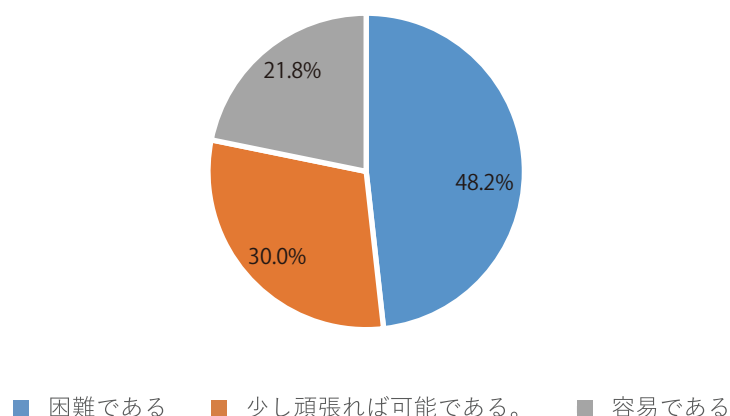
(1) 自宅から徒歩圏内で行くことができる場所はどこですか。(複数回答)



選択項目の全てが50%を下回っており、特にスーパーやドラッグストアといった生活に必須な商業施設の数値が低く、高齢者が多く暮らしている地域だけに不安が残る。

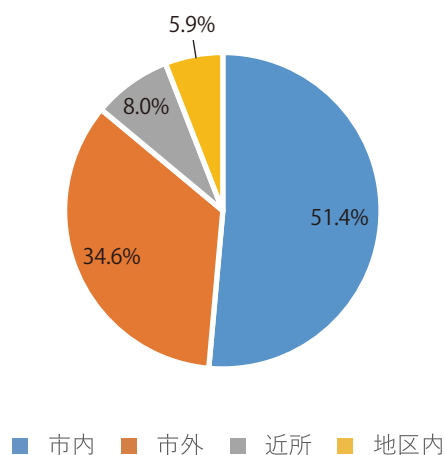
「徒歩圏内にはない」と答えた人が4人に1人以上いることから、どこに行くにも移動のための交通手段が必要であることがわかる。

(2) 徒歩や自転車などにより、自宅周辺で買い物することは可能ですか。



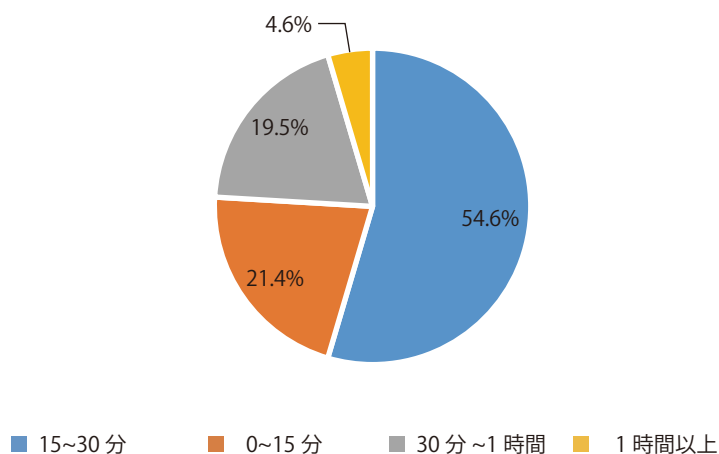
徒歩や自転車などの手軽な交通手段で買い物できない人が約半数を占める。「少し頑張れば可能である」と答えた人も普段は自動車など他の交通手段を利用していることが考えられ、約8割の人は移動の困難さを感じている。

(3) よく行くお店の場所はどこですか。



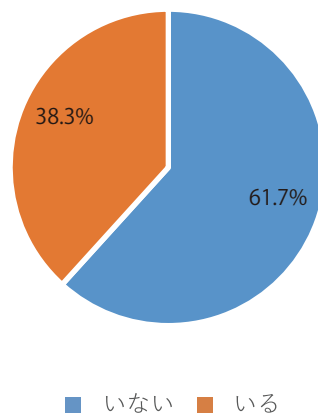
よく行く店の場所は「近所」、「地区内」がいずれも 10% 未満と低く、半数以上が「市内」、そして「市外」が約 3 割という結果だった。よく行く店のほとんどが近所になく、それなりの距離離れており、買い物に関して何らかの交通手段が必要であることがわかる。

(4) よく行くお店の所要時間はどれくらいですか。



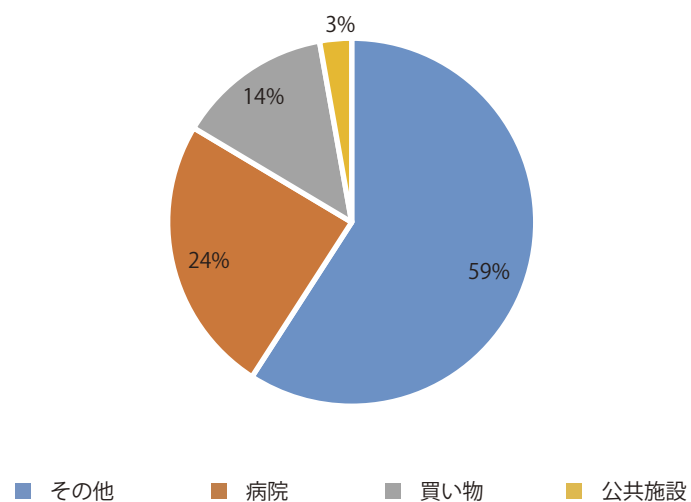
店への移動時間は想定より短い結果となったが、それでも「15~30 分」の回答が半数以上であり、「15~30 分」という時間は高齢者にとって徒歩や自転車では体力的に厳しいと予想されるため、何らかの交通機関を使用していると考えられる。移動に支障がないと考えられる「0~15 分」と回答した人は約 2 割にとどまった。

(5) 家族以外の人で買い物などの用事の代行を頼める人はいますか。



6割以上の方が用事の代行を頼める人がいないと回答している。現在は自分でできたり頼める家族がいるとしても、やがて買い物や用事を自分でこなさなければならない状況になる可能性もあり、将来に対する不安を感じていると思われる。

(6) バスを利用する目的はどこに行く時が最も多いですか。

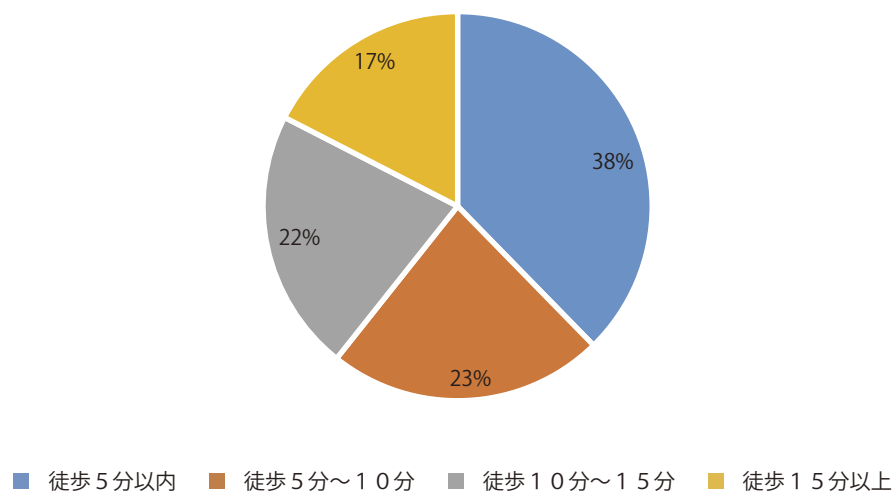


約6割の住民が「その他」の回答であった。また、その中で約7割の人々がバスを利用しないと回答していることから、全体の4割程度はバスを利用していない事がわかった。利用していない人々の移動手段として多いのは自家用車である。また「その他」の中の回答で、バス自体が通っていない人が約10%いることから、バスが移動手段としての役割を十分に果たせていないことが分かる。

#### その他に回答した人の回答内容

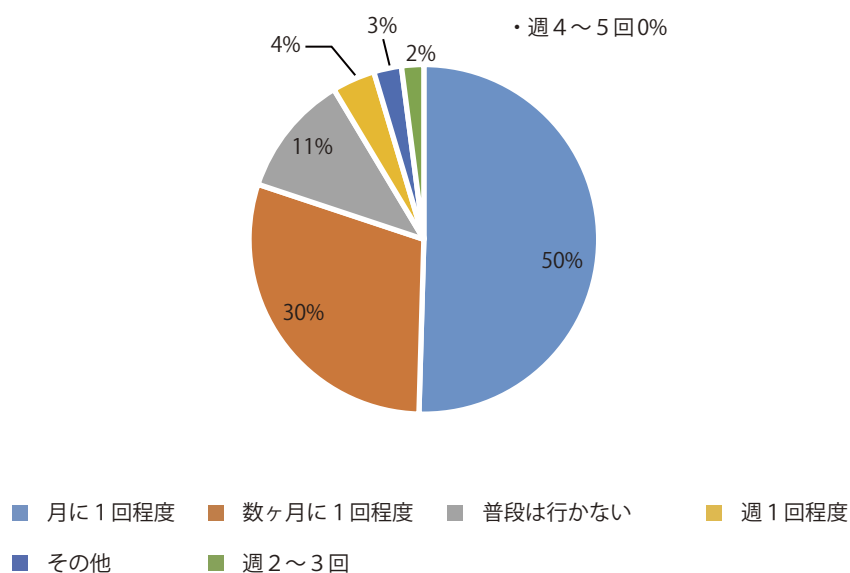
回答	回答数	割合
利用しない	345	72%
自家用車	50	10%
バス自体が通っていない	48	9.8%
利用した事がない	11	2.2%
高速バス	5	1.2%
駅	4	1%
東京方面	4	1%
タクシー	2	0.5%
その他	12	2.3%
合計	481	100%

(7) 自宅からバス停までどのくらいかかりますか。



約4割は自宅から徒歩5分以内にバス停がある。しかし一方で、徒歩での移動が厳しいと思われる、10分以上の時間を要する人も約4割となっている。自宅からバス停までの距離と時間には居住地によってばらつきが大きいことが分かる。

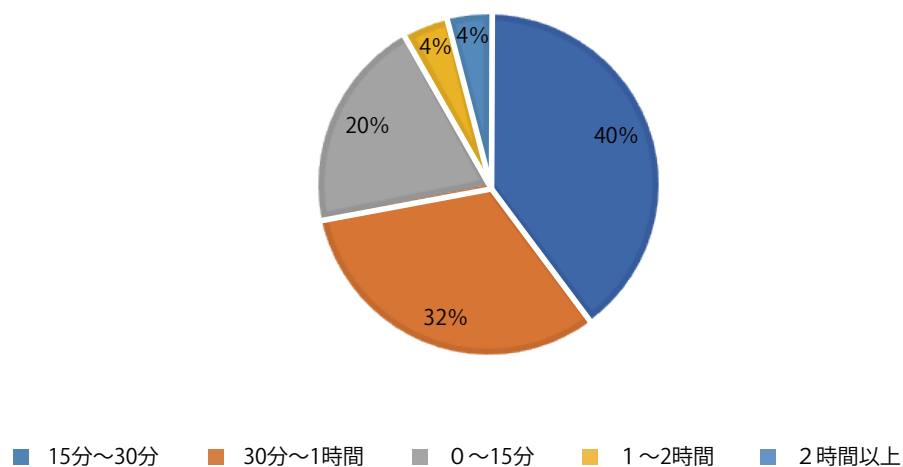
(8) 普段、医療機関に出かける頻度はどのくらいですか。



医療機関に出かける頻度は半数が「月に1回程度」であった。また、3割は数ヶ月に1回程度の間隔で通院しているとの回答であった。全体的に見ると、医療機関に通っている頻度は予想されたよりも低かった。定期的に通っているにしてもそれほど頻繁ではなく、検診や薬の受け取りなどが目的であることがうかがわれる。

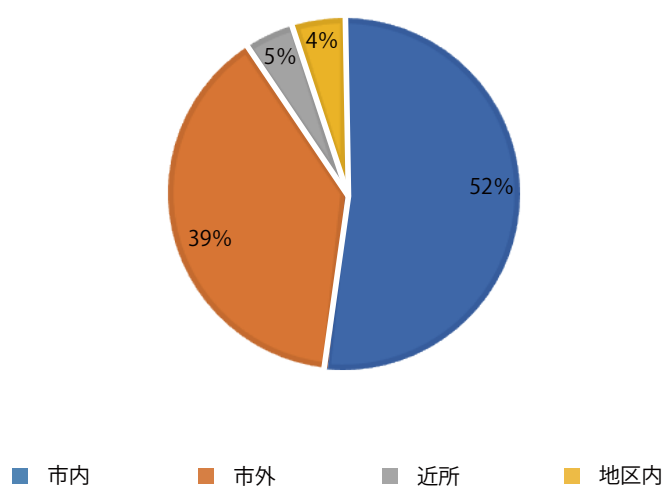


(9) 医療機関に出かける際の移動時間はどのくらいですか。



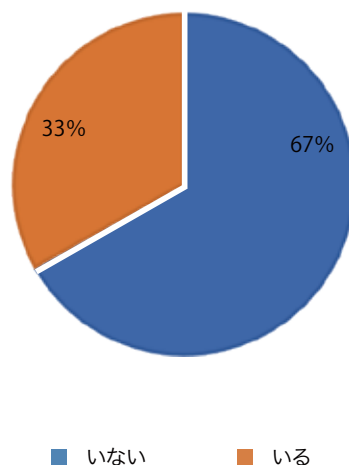
医療機関に出かける際の移動時間は15分から30分が最も多く40%となっており、「0～15分」も20%であることから予想よりも短い結果となった。約30%の「30分～1時間」の回答を合わせても移動時間は1時間以内の人がほとんどであるが、利用する移動手段やその利便性などをあわせて考慮する必要がある。

(10) 主に利用する医療機関はどのような場所に位置していますか。



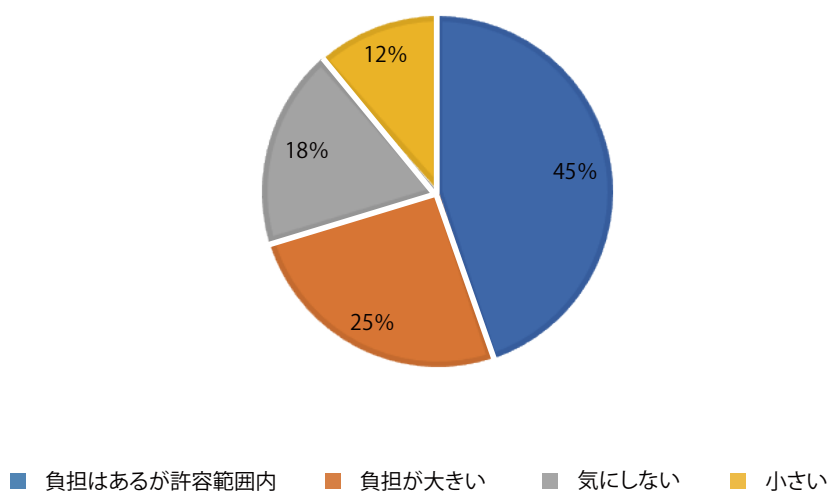
主に利用する医療機関が市内に位置していると回答した人が約5割であり、市外と回答した人も約4割と多く、何らかの交通機関を利用しないと医療機関に行く事が出来ない事がわかる。

(11) 普段外出する際に、家族以外で送迎を頼める人はいいますか。



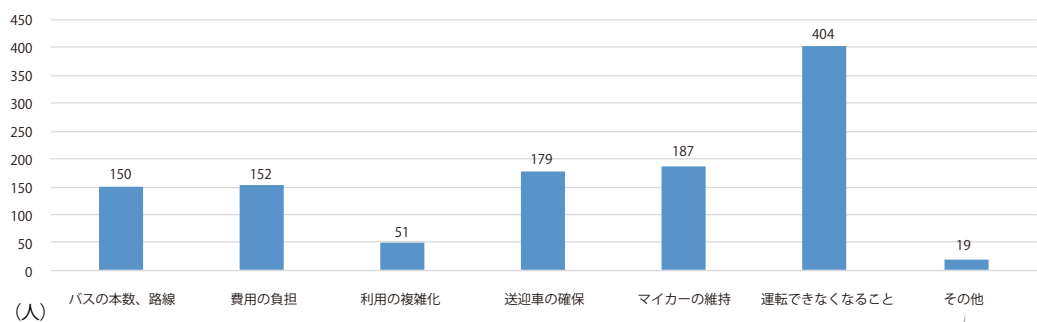
普段外出する際に、家族以外で送迎を頼める人がいないと回答した人が約7割であり、大部分が家族以外での送迎を頼めないため、状況によっては気軽に離れた場所に出かける事が難しい場合があると思われる。

(12) 現在、買い物や病院など移動にかかる交通費の負担は大きいと感じますか。



買い物や病院などの移動にかかる交通費の負担が許容範囲内と回答した方が45%、気にしないと回答した人と、小さいと回答した人を合わせると、移動にかかる交通費を負担に感じていない人は7割以上であった。予想よりも負担を感じている割合は低かったが、その一方で負担が大きいと感じている人も25%となっており、利用する交通機関によって負担が異なることが推測される。後の(14)の回答結果も考慮すると、許容範囲内であると回答した人でも、負担は減らしたいと考えていると思われる。

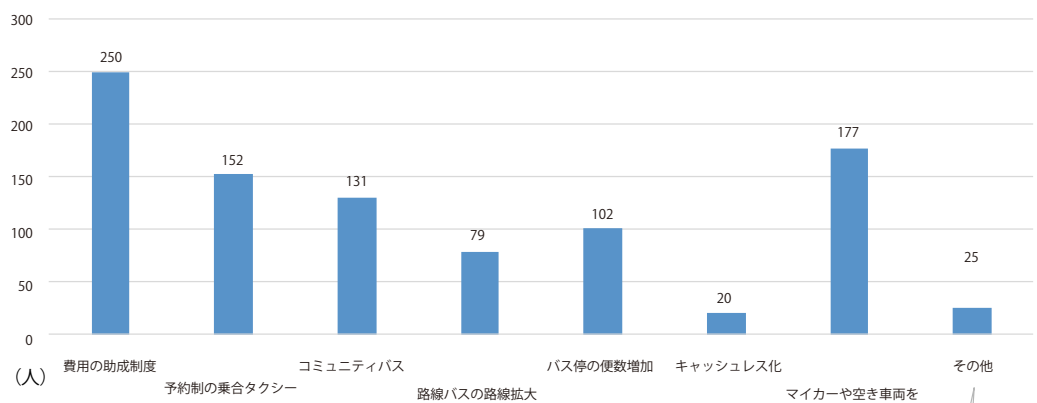
(13) 将来の外出、移動への不安はどのような事がありますか。(複数回答)



・体の負担、歩行困難 ... 3人    ・運転してくれる人がいなくなる ... 2人    ・道が狭くてタクシーなどが家の前に来れない ... 1人    ・子供に依頼するから不安はない ... 5人

運転できなくなることに対する不安を感じる人が回答者の3分の2を占めていて、自家用車を自分で運転して外出をしている人がほとんどだとわかる。また、利用の複雑化に関して不安だと思う人が比較的小さいために、外出や移動のための新たなサービスの導入などには比較的寛容だと考えられる。

(14) 将来の外出、移動に関する希望はありますか。(複数回答)



・家族に依頼 ... 6人    ・バス等に乗る事ができない時の移動 ... 4人    ・バス停などの風雨対策 ... 1人    ・新しい道路 ... 1人    ・勝浦から鴨川(亀田病院)までの移動手段

費用の助成制度を求める声が一番多いことから、費用に負担を感じている人が多い事がわかる。(12)では負担を許容範囲内と答えた割合が多かったが、実際にはできるだけ移動にかかる費用を減らしたいと考えていると思われる。(13)で運転できなくなることに対する不安を感じる人が多いのに関連して、乗合タクシーや送迎サービスを求める声も多くあがっていると考えられる。

## 総合的考察

今回のアンケート集計結果では、回答者の年齢層は70～80代が多かった。

(1)～(3)の回答から、近くにスーパーやドラッグストアなどの生活必需品を購入できる場所が少なく、約半数の人は徒歩で買い物に行くことは困難であることがわかった。

(4)、(9)から買い物や通院をする際の所要時間は15分～30分という人が多かったが、医療機関の場合は30分～1時間が3割と、買い物よりも時間がかかる傾向にある。(8)より通院の頻度はそれほど高くないものの、(10)で通っている医療機関の場所が市外という人も多く、自分で運転できない場合に通院の移動手段が課題となることが推測される。

(5)、(11)の設問の回答を合わせると、買い物や送迎などで家族以外に頼める人がいない人が多く、自分で運転するか、家族に頼む以外の選択肢がないことが考えられる。(13)では将来に関する不安として、運転できなくなることが一番多かったことから、現在は自分で運転して移動できるのでそれほど困っていないが、運転できなくなった時に頼める人がいないため移動が困難になることを不安と感じていることが理解できる。

(6)、(7)から公共バスについては利用しない人の割合が高く、バス停までの距離が地域によって差が大きいこともあり、バス自体が通っていないことも含めてバスの利便性の低さが読み取れる。

(12)の交通費の負担については、許容範囲との回答割合が多かったものの、負担と感じる人の割合も1/4程度あり、(14)の移動に関する希望では、費用の助成制度が最も多かったことから、やはり移動に関する費用を減らしたいと考えていることがわかる。

以上の結果から、自分で運転できなくなっても、金銭的負担が少なく医療機関や日常の買い物の際に手軽に使えるようなサービスが望まれるが、送迎サービスや乗合タクシーなどの検討においては、コストや人材の確保などが課題となることが予想される。

最後になりましたが、今回は新型コロナウイルス問題のため集計作業が大幅に遅れたことをお詫びいたします。調査にご協力いただいた関係者の皆さんに感謝いたします。

## 調査に対する勝浦市の見解

- ・現在は、本人または家族が運転する自家用車による移動が大半であり、自宅の近くにバス停があるとしてもバスの利用は限定的となっている。
- ・現時点では公共交通の需要は少なく、また、分散している。
- ・今後は、家族構成にもよるが、自家用車での移動が出来なくなったときに公共交通での移動が必要となるものと考えられる。
- ・その場合の交通施策としては、路線バスの運行維持やデマンドタクシーの運行、さらには地域で運営・運行する自家用有償旅客運送などが有効と考えられる。
- ・交通施策ではないが、高齢者施策としてのタクシー利用料助成なども公共交通を補完するものとして有効と考えられる。

鉄道や路線バスは決まった時間に運行されるといった運行の定時性があり、デマンドタクシーには少ないニーズに対応できたり、自宅まで送迎ができるといった特性もある。

タクシーも含めたそれぞれの公共交通の特性を活かした市民の移動手段の確保について、引き続き市民ニーズの把握に努め、国等の補助金を有効に活用しつつ、利便性の確保とコストとのバランスや、運行事業者の確保などの問題について公共交通活性化協議会等の場で協議・検討を続けていく必要があると考える。